令和２年

６月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課（農業革新支援センター）の取組～

岐阜県農政部農業経営課

令和２年６月の普及活動状況ダイジェスト版

新たなブランドづくり

■郡上農林　だいこん　新型コロナ対策で労働力確保

ひるがの高原だいこん生産出荷組合では、新型コロナウイルス感染症の影響により、受入れ予定の中国人技能実習生13名が来日できず、突然の労働力不足に陥った。

そこで農業普及課では関係機関と連携し、観光客が激減した物産店やオフシーズンのスキー場従業員等に声をかけ、7戸の農家にて12名の働き手を確保することができた。農家からは「働きに来てくれてありがたい」「これで仕事が順調に進む」など感謝の声が聞かれ、また働きに来ている方も農業への興味を深め「収穫作業もやってみたい」と積極的に作業に従事している。

今後は国の補助事業「農業労働力確保緊急支援事業」の活用を検討しており、農業普及課は技術指導だけでなく幅広く産地の支援を行っていく。

【作業する働き手】

多様な担い手づくり

■可茂農林　トマト研修生　美濃白川夏秋トマト基礎講座の開催

美濃白川夏秋トマト基礎講座は、美濃白川就農応援会議と美濃白川夏秋トマト部会の共催で行う、あすなろ農業塾の研修生向け座学研修会である。

６月８日に第１回講座を、研修生１名に対して可茂農林事務所農業普及課職員が講師を務め開催した。テキスト「栽培暦徹底解説」に基づき、育苗・定植に関して講義した。研修生は、あすなろ農業塾長の元で作業を中心に学び生産者の目線の具体的かつ実践的なアドバイスを得るとともに、本基礎講座において科学的根拠を学ぶ事により、作業内容を理論的に理解することができる。

今後は生産者へも参加を募り、講義だけでなくお互いに意見交換ができる場としても活用していきたい。

【第１回基礎講義】

■東濃農林　新規野菜生産者　みずなみ野菜づくり塾開講

６月11日に瑞浪市の農産物等直売所「きなぁた瑞浪」において、今年度の「みずなみ野菜づくり塾」開講式および第１回講座が開催され、野菜づくりに関心のある12名が参加した。

主催者のＪＡとうと及び支援機関の農林事務所・市はあいさつの中で、野菜生産者が新たに増えることの期待を示された。農林事務所は野菜の土づくり等のポイントを講義したのち、体験ほ場にてＪＡがナス・トマト・きゅうりの仕立て方等を指導した。

塾は 12 月まで毎月計 7 回の開催予定であり、修了者が地域の野菜づくりの担い手になるよう、農業普及課では講座の実施を支援する。

【開講式の様子】

■飛騨農林　担い手　**兀下大輔氏、中日農業賞優秀賞を受賞！**

高山市のトマト農家、兀下大輔（はげしただいすけ）さんが第 79 回中日農業賞優秀賞を受賞し、その授与式を飛騨総合庁舎にて行った。

兀下さんは、県中山間農業研究所で開発された夏秋トマト３Ｓシステムをいち早く取り入れ、栽培期間を約２ヶ月延長、収量も２倍以上に増やすことに成功した。生産者仲間や関係機関と連携してシステムの普及に尽力するとともに、青年農業士として担い手育成に貢献し、若手農業者のリーダーとして活躍した事が高く評価された。

農業普及課は、新規就農者が多い飛騨地域にあって、兀下さんに追いつき追い越せる農業者の育成を継続して行っていく。

【受賞された兀下氏】

売れるブランドづくり

■岐阜農林　スマート農業　**小麦の刈取作業にロボコンバインを使用**

瑞穂市巣南町の（農）巣南営農組合では、国のスマート農業技術開発実証プロジェクトの採択を受け、水田における３年５作体系の構築に向けたスマート農業機械の実証試験を行っている。

６ 月は小麦の収穫とその後の耕起、水稲の代掻き・田植えを連続して行う時期である。実証試験ではアシスト運転機能付きアグリロボコンバインを、初めて小麦の収穫に導入した。収穫物を運搬トラックに排出するタイミングやルートを自動計算するため、収穫時間が短縮され、梅雨入り前の限られた期間に刈取を終える事ができた。

農業普及課では実証ほ場において小麦の収量調査を行っており、今後ロボコンバインから得られる収量・品質データを得るとともに作業時間の評価を行う予定である。

【ロボコンバインによる麦刈】

■西濃農林　冬春トマト　**生育調査の方法を解りやすく動画で説明**

海津地域の冬春トマト産地では、「冬春トマトビッグデータ活用推進協議会」が実施主体となり「スマート農業総合推進対策事業」に取り組んでいる。構成員は生産者で組織する「海津トマト部会養液研究会」17名、農林事務所など県関係部署、市、ＪＡ、関係企業で、事業目的は農業者間で生産環境等のデータを蓄積・共有し、データ分析結果に基づき栽培技術・経営の最適化を図ることである。

ハウス内環境データの他、会員が定期的に行う生育調査データを活用するため、農林事務所では、皆が同じ手法で生育調査きるように説明動画を作成した。内容は７項目の生育調査方法で、６分程度に解りやすくまとめた。

今後はこの動画を活用し、正確なデータ収集が行われるよう研修会を開催するとともに、ＩＣＴを活用した情報発信を検討していく。

【作成動画の一場面】

■揖斐農林　茶　**ハマキムシ バスターズ参上 ！！**

ハマキムシは、防除時期が茶の収穫時期と重なるため防除のタイミングが難しい主要害虫である。これまで、防除体系の見直しや性フェロモン剤の活用を進め一定の防除効果をあげてきたが、被害が抑えきれない状況もあった。

そこで、ハマキムシに感染するウイルス製剤に注目し、生産組織、農薬メーカー、JA、農業普及課が連携し、現地実証することとした。本剤希釈液を６月に散布することで、死亡虫が次の感染源となり、２世代以降の幼虫にも感染させることができる。価格も一般の殺虫剤と変わらず、設置等の手間も少ない。

農業普及課は秋まで定期的な効果確認を行い、現地での普及を支援する。

【被害調査の様子】

■下呂農林　スマート農業の推進　スマート農業加速化実証活動本格化

下呂市金山町の法人経営体は今年度「スマート農業加速化実証プロジェクト」の採択を受けた。実証対象者、農林事務所および県関係部署、市、ＪＡ、関連企業等で構成する実証コンソーシアムは、スマート農業技術による農作業の効率化、米の品質向上等の実証活動に取り組んでいる。

スマート農業機器の導入準備は５月末までに概ね終了。６月からはデータを活用した栽培管理等、実証活動および調査を進めている。その中で、無線遠隔草刈機など実証対象者の評価が高い技術や、新たな課題が明らかとなった。

農業普及課では調査結果および農業者・関係機関の意見等を活用し、スマート農業技術の利用拡大に向けた取組を継続する。

【無線遠隔草刈機での作業】

■革新支援センター　夏秋トマト　飛騨地域夏秋トマト３Ｓシステム研究会開催

６月９日、令和２年度第１回飛騨地域夏秋トマト３Ｓシステム研究会を開催した。飛騨・下呂地域における導入に意欲的な若手生産者、興味を持つ生産者、導入生産者、ＪＡ等２５名が出席した。

研究会では生育状況や栽培上の留意点について、中山間農業研究所および普及指導員から情報提供を行った。続いて、高山市朝日町の新規導入ほ場へ移動し、担当普及指導員がこれまでの生育状況について説明を行うとともに、生産者間で情報交換を行った。

【３Ｓシステム研究会の様子】

住みよい農村づくり

■中濃農林　ゆず　かみのほゆず産地戦略会議で「産地方針」推進

かみのほゆず(株)、生産者代表、関市東商工会、関市、ＪＡめぐみの、県農業経営課、農業普及課からなる「かみのほゆず産地戦略会議」では、関市上之保地区の特産であるゆずの産地振興ビジョン「かみのほゆず産地方針」を昨年度に策定した。

６月 29 日、今年度１回目の「かみのほゆず産地戦略会議」を関市東商工会上之保出張所で開催し、今後の「かみのほゆず産地方針」の取り組みについて検討するとともに、出席者それぞれの役割を確認した。

農業普及課では、関係機関と連携を図りながら「かみのほゆず産地方針」に基づき、今年度のゆず産地振興を進めていく。

【産地戦略会議の様子】

■恵那農林　トマト・なす、新型コロナ関連支援　選果場の感染症防止対策の現地確認を実施

新型コロナウイルス感染症は、緊急事態宣言解除後も引き続き感染防止の取り組みが必要な状況下にある。ＪＡは、出荷物やそれに伴う人の出入りが集中する野菜選果場でのウイルス感染によるリスクを回避する必要がある。

６月 12 日、ＪＡは農業普及課と共同で、中津川・加子母の各トマト選果場及び福岡なす選果場を巡回し、現地の状況を確認した。これに基づき、従業員の飛沫感染防止、休憩室・トイレ等における接触機会の低減、出荷農家や外部者との動線分離などの対策を強化し、感染リスクの低減につなげる取り組みを実施する。

管内のトマト・なすは現在収穫期となり、６月中旬から順次選果場の稼働が始まっている。出荷が止まる事態とならないよう、今後も産地ぐるみで感染防止対策を進めていく。

【トマト選果場での確認】